

米国カリフォルニア州 核果類の水と労働力の状況が改善

[FreshPlaza](#) 2025年7月1日

カリフォルニア州の核果類の出荷シーズンは、これまでのところ最適な状態である。様々な核果類を有機栽培するオルソンファミリーファームズのマグナス・オルソン氏は、「これまでの気温は非常に穏やかで、平均を下回っている。雨の少ない天候と華氏80度台半ばから90度台前半(概ね29~34℃)の気温は、果実にとってちょうど良い。このような気温は果実が熟す前に肥大する機会を与える」と話す(以下「」は同氏の話)。シーズンは最盛期を迎えているが、これまでのところ、16ポンド(約7.3kg)箱の出荷価格は30ドル台半ばから前半に保たれている。

水供給

こうした理想的な夏の天候条件になる前、冬の期間には豊富な降雨があった。「その結果、水の供給量は年間必要量の80%に達している。これにより、ポンプによる地下水の汲上げを強いられることなく、地表水を灌漑に使用できるようになったことは非常に有益である。」汲上げのための電気代はすぐに積み上がるため、地表水は生産者にとって最も安価な選択肢である。同氏は、湖の現在の水位から見て、シーズンの大部分で地表水を使用することを見込んでいる。「時にはポンプで補う必要があるかも知れないが、地下水の割り当てがゼロだった数年前のようなことはない。」

労働力確保の改善

水に加えて、労働力も長年にわたって課題となってきた。しかし、この2年間は状況が改善している。「作物を変えることで、労働力が確保しやすくなった。人件費は最大の投入コストの1つであり、労働者を確保する難しさと相まって、多くの生産者はこの数年で労働集約度の低い作物に切り替えることを決断した。」核果類のような(労働集約度の高い)作物は、ナッツ、レーズン、柑橘類、ブルーベリー等の機械収穫ができて労働集約度の低い作物に次第に置き換えられている。さらに、今シーズンは気温が穏やかなため、果樹からの果実の収穫を急ぐ必要があまりなく、これも労働力の確保に役立っている。オルソンファミリーファームズでは核果類の有機栽培を続けているが、最近では多様化のためにカキの栽培も増えている。

1980年代以降、同社は果実の有機栽培のみに取り組んできた。「弊社では、慣行栽培が多いほど、昆虫などの生息地が少なくなることに着目してきた。花粉媒介昆虫の生息地が減少していることは非常に懸念されており、それらにとって最適な環境を作り出すよう貢献することが我々の目標である。」

執筆者: マリーケ・ヘムズ

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)